

2011年度 学生プロジェクト年間活動報告書【3月号】



プロジェクト名称 【参加人数：7名】

会津坂下町／東大宮連携支援プロジェクト

活動概要・目的 【活動期間：2011年6月1日～2012年3月31日】

2011年3月11日に東日本太平洋沖地震が起き、福島第一原子力発電所が爆破し、大量の放射線物質が放出された。それにより福島県内において、様々な地域でモノが売れない、観光客が来ないなどの風評被害が発生した。風評被害とは間違った情報の認識によって起こるものである。

そこで私たちは東北出身、関東在住といった利点を活かし、正しい情報を発信していこうと考えた。活動場所として、「福島県会津坂下町」と「東大宮」の2地区を対象とした。

活動目標は「関東圏での物の消費、正しい情報・現状の発信」とし、具体的な活動として、

- ①学園祭や東大宮のお祭りなどの様々なイベントでのモノの消費・情報発信や収集をすること。
 - ②他団体と協力して会津ツアーを実施することでの、現地へ行くきっかけ作りをすること。
- を挙げる。

年間活動実績

日程	活動概要	活動場所	活動内容
6/4	学生プロジェクト選考会	豊洲キャンパス	企画内容の発表
7/14	学内アンケート	大宮キャンパス	東日本大震災に関するアンケート収集
7/15	芝浦祭説明会	大宮キャンパス	参加団体への諸連絡、スケジュールの確認等
7/24	東大宮サマーフェスティバル(以下東大宮SF)打ち合わせ	東大宮5丁目自治会館	出店に関しての諸連絡、スケジュールの確認等
7/30 ～8/3	東大宮SF 会場設営	東大宮中央公園	会場設営機材搬入、ステージ組立等
8/5 ～8/6	東大宮SF当日	〃	会津産の食材を使ったおにぎりの販売/アンケート調査等
8/7	東大宮SF後片付け	〃	片づけ、備品返却、会場整理清掃等
〃	オープンキャンパスにて活動紹介	大宮キャンパス	オープンキャンパス(大宮)にて活動紹介アンケート調査
8/21	オープンキャンパスにて活動紹介	豊洲キャンパス	オープンキャンパス(豊洲)にて活動紹介アンケート調査

2011年度 学生プロジェクト年間活動報告書【3月号】



年間活動実績

日程	活動概要	活動場所	活動内容
9/15 ～9/18	現地視察&意見交換	福島県会津坂下町及び会津地域	会津見学及び地元のイベントに参加、観光地の方へヒアリング、会津坂下町役場の方と意見交換
10/7	活動報告書9月号提出	大宮/豊洲キャンパス	前半の活動をまとめた「活動状況報告書9月号」を企画室へ提出
10/10	SD研究会(※1) 中間報告会	大宮キャンパス	SD研究会にて、主に環境システム学科3、4年生へ活動発表
11/2	芝浦祭準備	豊洲キャンパス	テント設営、レンタル備品搬入
11/4 ～11/6	芝浦祭当日	〃	会津産の食材を使ったカレーの販売、チェキ企画(※2)等
11//7	芝浦祭後片付け	〃	片づけ、備品返却、会場整理清掃等
11/19 ～11/20	会津ツアー視察	福島県会津坂下町及び会津地域	今後、会津へ人を連れて行きたい(ツアーを企画したい)と考えている。その件について、現地の方との意見交換や予定コースの視察
12/23	SD研究会 最終報告会	大宮キャンパス	SD研究会にて、主に環境システム学科3、4年生へ活動発表
1/16	活動報告書12月号提出	大宮/豊洲キャンパス	後半の活動をまとめた「活動状況報告書12月号」を企画室へ提出
3/12	活動経費内訳報告書提出	大宮/豊洲キャンパス	活動経費の内訳をまとめた「活動経費内訳報告書」を企画室へ提出
3/17	年間活動報告書提出	大宮/豊洲キャンパス	1年間の活動をまとめた「年間活動報告書」を企画室へ提出

※1 環境システム学科中野研究室及び松下研究室が合同で主催している勉強会。環境システム学科の3年生と4年生が主な対象

※2 チェキ(=撮影した写真がすぐに現像されるカメラ)を用いて、消費者の方の笑顔を現地農家の方に届けようという企画。



プロジェクトの成果・結果・達成度・関係者からの評価

【東大宮SFより】

- ◆支援したいという気持ちはみんな持っているが、時間・機会・情報が無いため、行動に移せない
- ◆募金以外の活動がわからないので募金だけしかできないという背景が一部にはある。
- ◆**現地での情報、何を求めているのかという情報の発信が今後一番重要になってくる**と考える。

【現地ヒアリングより】

- ◆今現在、被害が明るみに出ていないが、数年、十数年後など、将来的に出た被害に対して国はどう保証などを考えているのか心配
- ◆大手メーカーは、疑わしいものはすぐに排除する。大手が取り扱わないと、小売店や卸売りも手を出さない。結果、被災を免れた地域のスーパーなどには並ばない。
→**買いたくても買うことができない。この市場原理は疑問を感じる。**
- ◆市場流通の業者が自分を守るために契約農家を切った。団体に所属している人も、個人個人に話を聞いてみると意見が割れることがあった。**気にしない人でも売りに出されなければ買えない。**

【芝浦祭より】

- ◆馬肉カレーが3日間で約380食販売することが出来た。
- ◆場や機会があれば多くの方に福島のものも食べていただけたことが分かった。
- ◆消費者側へのアプローチ方法が分かった。

【現地ツアー視察より】

- ◆実際に現地に行くには抵抗がある人が多い。**福島に触れる機会を設ける、都内などで福島の人のお話を実際に耳にする、繋がりを作る、現地に行くという様に段階を踏んでいくことが大切。**
- ◆現地の様子を自分たちの目で見て、感じる事が出来た。
- ◆現地の方々とのつながりを持つことが出来た。
- ◆ツアーを行う際に考慮すべき課題を発見することが出来た。

【関係者からの評価】

紹介したい人材のほんの一部ではありますが、いずれもかなりのネットワークを持っている方ばかりなので、今後の活動にも必ず役に立つと思いますよ。**人と人との繋がりがり…そここのところを支援したいという着眼点は素晴らしい。**本当に、そここのところが大切です。大きな力に化けます。
(会津坂下町役場 長谷川裕一様)

本来ならば、飛び入りでの出店は認めていない。正式に順番を待っている団体などもあるため。震災があった今回の祭の開催にあたっては、多方面から「被災地支援のため」という名目での出店希望が相次いだ。そのような中、被災地出身の学生が、学校の正規な許可をもらって活動を行っているのはこちらとしても嬉しく思い、今回は特例として出店を認めました。一緒に頑張りましょう。
(東大宮サマーフェスティバル実行委員会)

2011年度 学生プロジェクト年間活動報告書【3月号】



受賞・メディア取材(新聞、広報誌、TV等)

◆NPO法人新現役ネットの会員向けホームページ ツアー募集案内

<http://www.shingeneki.com/cgi-bin/event/detail.cgi?EN=11111902>

◆平成24年度 広報あいづばんげ 1月号

http://www.town.aizubange.fukushima.jp/Members/hisyokouhou/contents/folder.2012-01-11.1335362332/copy7_of_kouhouh2306.html

坂下を応援してくれています



会津坂下町出身の芝浦工科大学院生の鈴木翔太さんを中心とする学内の「会津坂下町/東大宮連携支援プロジェクト」では、大震災後の現状を埼玉県東大宮市民に広く伝える事と支援する側の現状を町側に伝えることで、風評被害を無くすことや農産物等の消費を増やそうという取り組みを行っています。
8月の東大宮サマーフェスティバルや11月の学園祭では、町の農産物を販売したり、馬肉カレー(食材はすべて坂下産)を提供したりしました。また、モニターツアーも実施しました。

下線部引用

会津坂下町出身の芝浦工業大学大学院生の鈴木翔太さんを中心とする学内の「会津坂下町/東大宮連携支援プロジェクト」では、大震災後の現状を埼玉県東大宮市民に広く伝える事と支援する側の現状を町側に伝える事で、風評被害を無くすことや農産物等の消費を増やそうという取り組みを行っています。

プロジェクト活動を振り返って(チームとして成長したこと、感動や印象に残っていること、反省、今後の展望について)

発足して1年目のプロジェクトなので過去との比較は出来ないが、開始当初と比較して、事務的な能力や伝える力等は身についたと感じる。そして何より学内で活動していただいただけでは会うことが無かった人達と関わり、自分たちとは違う視点などに触れたことはチーム・個人問わず、人間的成長に繋がったと思う。

プロジェクトを通して、『世間やメディアはあえて「福島」について触れないようにしている。』と感じた。だから詳しい情報を知らない人々は、福島に関わらないようにする。そのため福島産のものが売れないという現状が起こっているのではないかと思えた。自分達は活動の中で(自分達がパイプとなって)福島産の物を多くの人に食べてもらおうというダイレクトな取り組みを行った。買ってくれるのか、敬遠されるのか不安であったが、全日程において完売という結果であった。完売したこともそうだが、イベントを通して騒がれているほどの風評被害を感じなかったことがとても嬉しかった。

また、立場や状況によって私たちの活動についての捉え方が大きく違うことに印象を受けた。自分達を応援してくれる人もいれば、もっと他にやる必要があると言う人もいた。色々な方々の想いを受けて、自分達のプロジェクトでどんなお手伝いが出来るか考え、それを形にしたいと感じた。

今後の展望として、挙げられるのは3点。1つ目は活動のマンネリ化が起きないような新たな提案。2つ目は流通の創造。3つ目は情報の発信である。特に、今期の反省点でもある情報の発信に力を入れていきたい。具体的にはSNSなどの利用や簡単なニュースペーパーの作成、他団体との情報交換会・共同作業等から、情報の収集と発信を行いたいと考える。

伝えるということは誰かがやらなければならないことであり、自分たちの活動の再認識が出来た。今までの、そしてこれから出来る繋がりを強く・太くし、その繋がりの力によって福島を含めた被災地の復興支援を行えればと思う。

2011年度 学生プロジェクト年間活動報告書【3月号】



プロジェクト活動写真

【東大宮SF】



〈会場設営〉



〈おにぎり販売〉



〈メッセージボード記入〉



〈アンケート収集〉

【現地視察】



〈町役場関係者とのヒアリング〉



〈交流ツアー下見:現地の方との交流〉



【芝浦祭】



〈馬肉カレー作成〉



〈ポスター掲示〉



〈チェキ企画〉



〈販売前に出来た長蛇の列〉

【会津ツアー視察】



〈酒蔵見学〉



〈味噌造り体験〉



〈交流会の様子〉

